

10月例会メインアワー

JCの山



そだてよGREEN (JCの山)

特別事業委員会 三輪修珍

JCの山は、昨年度25周年の記念事業として計画され、いよいよ2月20日の植樹祭より実行される。

このJCの山の植樹が実行される事により、われわれ全会員は、将来少なくとも40才になるまでは、その義務を負わされた事になり、JC卒業後は、当初の意義が失われないよう見守る必要がある。

それでは、JCの山の意義とは何か。第1に、県や市ぐるみの緑化運動に参加ができるという点である。緑化運動が叫ばれて久しいが、JC会員の中で、実際にその運動に参加した人は、何人いるだろうか。緑化運動といっても、その意味は深く、単に行動するだけでなく、精神的なものも含まれている。

今回からの植林事業は、その始まりにすぎない。初回の植樹に始まり、年2回の雑草を取り除く下払い作業まで約10年間(その後の10年間は、2年に1回)、われわれの労働によって、40年目の伐採が可能になる。その間、もし1回でも休んだら、杉というものは、成長が止まり、以後の成長にも影響を及ぼす事になる。

それ以外に杉が一人だちできる間に、施肥、枝打ち、間伐等々、われわれ自身の労働、あるいは山林労働者の手をかりて、JCの山は、40年後の伐採に向うことになるが、緑化運動に参加しているのだという事ではなく、緑化の芽を育てていく事に意義があると思う。

これが「育てよグリーン」の本業の意味である。

またわれわれの子供が、樹木にさわり、木に登り、いろんな昆虫や草花にふれることによって、自然の大きさを知ることが出来るのも、JCの山である。

第2の意義として、肉体及び、精神の錬磨、新しい友情の輪が広げられる。

今回からの作業、年2回、2日間の労働などで肉体、精神の錬磨とまではいかないが、その基礎には十分なりうるだろう。また、友情については肉体労働というこれまでとは、違った作業を行なう事によって、これまでより一層の友情関係が生まれるだろう。肉体労働による、体と体の付き合いは、理屈や理論では、割り切れない人間本来の原点に帰ったものがある。それがどのようなものであるかは、今後の働きによって、われわれ個人が、感じとるべきものであろう。

最後に、JCの山の意義として、40年後の伐採による利益金をどのように使用するかということである。40年後というと、現会員の平均年齢は、70才から80才、おそらく平均寿命が延びたとしても、2分の1ぐらいしか、生存していないだろう。その40年後の使用方法について議論するのは無意味であるかもしれない。

第1に社会的経済的な価値は、まったく変わっているかもしれない。

現時点で考えられることは、ただ一つ奨学資金づくりに役立たせようという考えである。

40年後は、われわれの子供、孫の人達が、会員になっているかもしれないし、また逆に、JCの山の恩恵を、受けているかもしれない。

その時の会員が、知恵を出し合って、もっともその時代にふさわしい、もっとも有意義な使用方法を、取ってくれるという事で十分ではなからうか。

以上、JCの山について、その意義を述べたが想像以上に、その意義は大きく、深く、そして広いものである。

われわれ全員が、参加し作業する事によって、少しずつ理解し、町ぐるみのグリーンキャンペーンに発展させてみたいものである。

学問なき経験は、経験なき学問にまさる

イギリスの諺

現時点で考えられることは、ただ一つ奨学資金づくりに役だたせようという考えである。

40年後は、われわれの子供、孫の人達が、会員になっているかもしれないし、また逆に、J Cの山の恩恵を、受けているかもしれない。

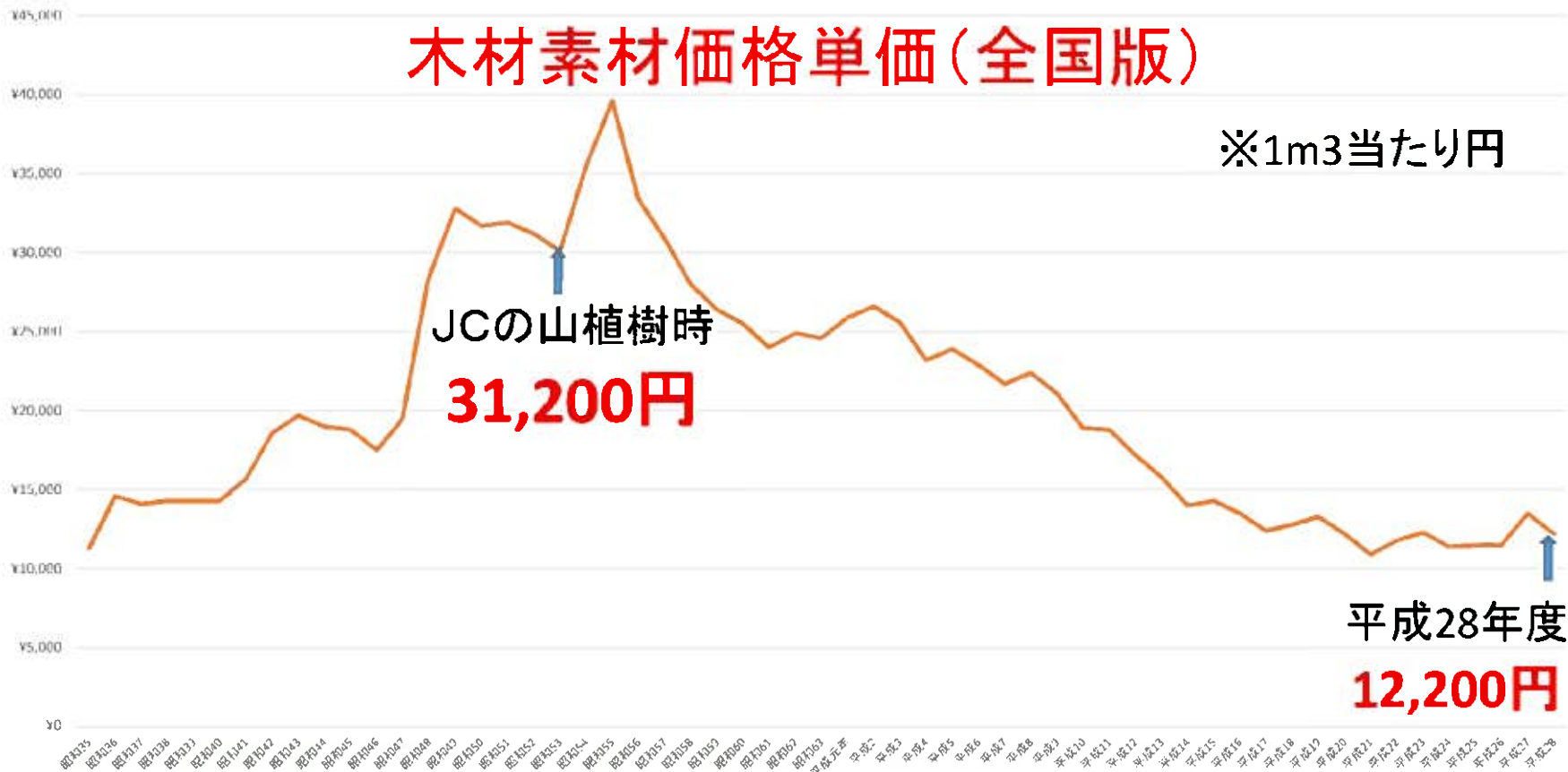
その時の会員が、知恵を出し合って、もっともその時代にふさわしい、もっとも有意義な使用方法を、取ってくれるという事で十分ではなからうか。











平成28年度 宮崎素材単価 ¥12,300

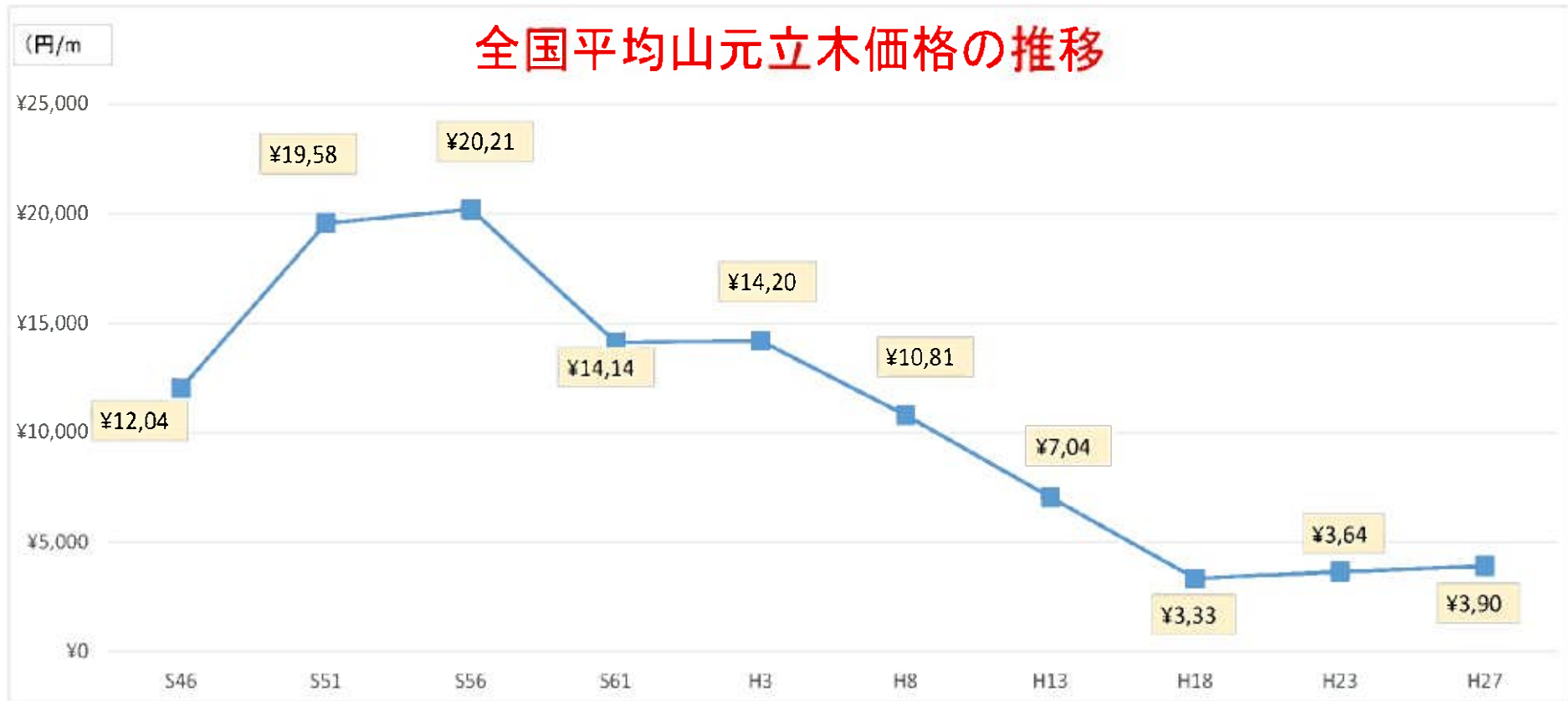
平成28年度 全国素材単価 ¥12,200

JCの山 事業当初 素材単価 ¥31,200

資料:総務省 統計局資料から一部抜



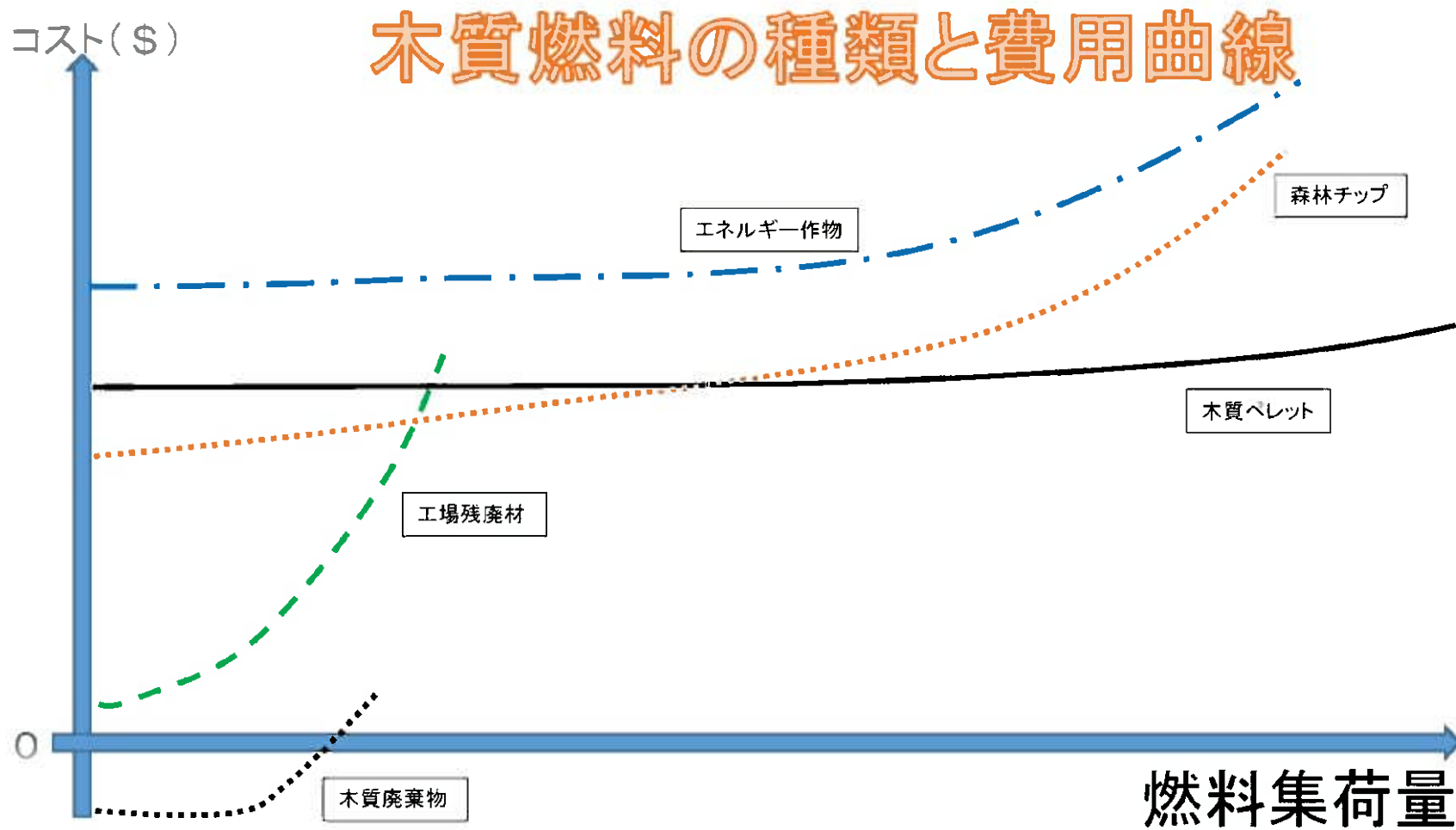
昭和62年から住宅需要を中心とする木材需要の増加により若干上昇したものの、平成3年からは再び下落
資料：一般財団法人日本不動産研究所『山林素地及び山元立木価格調』から抜粋



※マツ山元立木価格は、北海道のマツ(トドマツ、エゾマツ、カラムツ)の価格である。
資料: 一般財団法人日本不動産研究所『山林素地及び山元立木価格調』から抜粋

















修練・奉仕・友情を信条とし

よりよい地域づくりを目指す

青年会議所とは

青年会議所(JC Junior Chamber International)に明るい豊かな社会の実現を目指して、次代の担い手たる責任感を持つ20歳から40歳までの指導者たらんとする青年の団体です。

80数年の歴史を持つ日本の青年会議所運動は、めざましい発展を続けており、現在697の地域で約38,000名の会員を擁し、全国的運営の総合調整機関として日本青年会議所が東京にあります。日本青年会議所の奉事目標は、社会と人間の成長です。その具体的事業として我々は市民社会の一員として、市民の共感を求め社会開発計画による日常活動を展開し、自主を基盤とした民工的実用指導能力の開発を押し進めています。さらに日本の確立と民主主義を守り、自由経済体制の確立による豊かな社会を創出するため、市民運動の先頭に立ち、詳細団体、それが青年会議所です。

(2015年11月現在)

宮崎青年会議所はこんな活動を行っています!!

ひとづくり

社会の発展を促すには、人材の育成が最も重要で、人材の育成は、社会の発展を促す最も重要な要素です。本所では、会員一人ひとりの成長を支援し、社会の発展に貢献する人材を育成しています。

主な活動

- ・大宮第一地区の若手経営者セミナー
- ・各種セミナー・研修会
- ・若手経営者育成プログラム
- ・若手経営者育成プログラム
- ・若手経営者育成プログラム
- ・若手経営者育成プログラム

まちづくり

よりよい地域社会づくりのため、まちづくり活動を実施しています。地域の活性化や、市民の生活の向上に貢献しています。

主な活動

- ・まちづくり大会
- ・まちづくり大会
- ・まちづくり大会
- ・まちづくり大会

JCづくり

毎月の例会をはじめ、会員同士の交流の場を設け、互いに成長を促しています。

主な活動

- ・例会
- ・例会
- ・例会
- ・例会

奉仕・ボランティア

社会貢献活動を通じて、社会の発展に貢献しています。

主な活動・関係先

- ・赤十字社
- ・赤十字社
- ・赤十字社
- ・赤十字社

入会資格

- 20歳～37歳までの方、性別不問。
- 宮崎県及びその周辺に居住または勤務する方。
- JC宣言並びに請願に賛同し、行動力のある方。

活動

原則的に月1回の例会と委員会活動を行っており、例会は、外観からの信頼を高める機会を兼ね、会員相互の親睦、事業の交流を図る等、様々な企画で行われます。

会費

ご入会して頂くに際し入会費5万円、年会費12万円(初年度は9万円)、別途登録費が必要となります。

申込方法

所定の申込用紙に記入の上、写真2枚を添えて事務局へ申し込ください。また、お問い合せはお気軽に事務局までお願い致します。

宮崎JCの歩み

1951	設立(初代会長 藤田山次郎)
1952	第2代会長 藤田山次郎
1953	第3代会長 藤田山次郎
1954	第4代会長 藤田山次郎
1955	第5代会長 藤田山次郎
1956	第6代会長 藤田山次郎
1957	第7代会長 藤田山次郎
1958	第8代会長 藤田山次郎
1959	第9代会長 藤田山次郎
1960	第10代会長 藤田山次郎
1961	第11代会長 藤田山次郎
1962	第12代会長 藤田山次郎
1963	第13代会長 藤田山次郎
1964	第14代会長 藤田山次郎
1965	第15代会長 藤田山次郎
1966	第16代会長 藤田山次郎
1967	第17代会長 藤田山次郎
1968	第18代会長 藤田山次郎
1969	第19代会長 藤田山次郎
1970	第20代会長 藤田山次郎
1971	第21代会長 藤田山次郎
1972	第22代会長 藤田山次郎
1973	第23代会長 藤田山次郎
1974	第24代会長 藤田山次郎
1975	第25代会長 藤田山次郎
1976	第26代会長 藤田山次郎
1977	第27代会長 藤田山次郎
1978	第28代会長 藤田山次郎
1979	第29代会長 藤田山次郎
1980	第30代会長 藤田山次郎

入会者の声

20歳から37歳までの若者が集まる団体です。毎月の例会を通じて、互いに成長を促し、社会の発展に貢献しています。

1946年入会 (2013年度会長 146歳 男性)

社会の発展を促すには、人材の育成が最も重要で、人材の育成は、社会の発展を促す最も重要な要素です。

1958年入会 (2013年度副会長 137歳 女性)

毎月の例会を通じて、互いに成長を促し、社会の発展に貢献しています。

1962年入会 (2013年度副会長 133歳 男性)

社会の発展を促すには、人材の育成が最も重要で、人材の育成は、社会の発展を促す最も重要な要素です。

1968年入会 (2013年度副会長 127歳 女性)

毎月の例会を通じて、互いに成長を促し、社会の発展に貢献しています。

1972年入会 (2013年度副会長 123歳 男性)

社会の発展を促すには、人材の育成が最も重要で、人材の育成は、社会の発展を促す最も重要な要素です。

1978年入会 (2013年度副会長 117歳 女性)



JC三信条

- ・修練
- ・奉仕
- ・友情

対談協力

徳永 定俊 先輩 昭和52年卒業
 佐藤 公一 先輩 平成25年卒業

山の名は。製作スタッフ

データ収集	☆三原 龍二	
	☆宮永 迪拓	
データ作成	☆遠藤 健慈	
データ編集	☆前原 広弥	
シナリオ作成	☆長澤 隆憲	
	☆石塚 喜代美	
サブリーダー	☆長友 慶一郎	
リーダー	☆高畑 智穂	
監修	☆黒井 浩史	委員長
	☆月野 将義	セクレタリー

